

平成30年度 上下水道事業決算の総括

1) 経営状況

近年、人口減少等による収入の減少が懸念されておりますが、平成30年度は、給水収益の水道料金で家事用や業務用の使用水量が、下水道使用料で家事用の使用水量がそれぞれ増加したことから、水道事業及び下水道事業ともに収益が増加しました。

(予算対比で給水収益が78,470千円増、下水道使用料が40,371千円増)

2) 水道事業

平成30年度は例年同様に、計画的な施設・設備の更新・災害に強い施設整備を目指して、老朽化した管路及び各浄水施設等の更新事業を実施しました。

今後は、帯広市人口ビジョン等から、中長期的な視点で将来の施設の適正規模等を考慮し、適切な維持管理・更新を着実に進めていきます。

このほか、災害時の体制を強化するため、備蓄資器材の購入や配水ブロック境界にある仕切弁操作を電動化するための施設の改造工事等を実施しました。

3) 下水道事業

年々、下水道施設の老朽化が進み改築更新需要の増加が見込まれますことから、水道事業と同様に計画的な施設・設備の更新・災害に強い施設整備を目指し、事業を実施しています。平成30年度は、帯広川下水終末処理場の最終沈殿池設備の改修工事を完了しました。

また、水道事業同様、今後は中長期的な視点で将来の施設の適正規模等を考慮し、適切な維持管理・更新を着実に進めていきます。

このほか、市民への下水道事業の周知等を目的として、中心市街地等へカラーマンホール蓋を設置するとともに、災害時の体制を強化するため、備蓄資器材の購入や浸水被害のあった地域を優先した雨水管の整備等を実施しました。

4) 水道料金・下水道使用料の収納率について

平成30年度の収納率は、水道料金で92.62%（前年度より0.03ポイント上昇）、下水道使用料で92.58%（前年度より0.42ポイント上昇）となっています。

収納率はここ数年向上しており、主に次の取り組みが成果となって表れていると考えています。

- ・ 未納者の生活実態の把握に努め、収入等個々の状況に応じた対応や、仕事の都合等により日中相談ができない方を対象に夜間相談窓口を開設するなど、きめ細かな納付相談を実施してきたことが、自主納付意識の向上につながっています。
- ・ 未納者に対する早期かつ計画的な督促の実施や、分割納付の管理強化のほか、新規使用者を中心とした口座振替の促進やコンビニ納付の周知等により、納付遅延を減らす取り組みを進めています。

今後も、料金課職員が収納率向上の意識を持ち、公平で適正な料金・使用料の徴収に努めます。